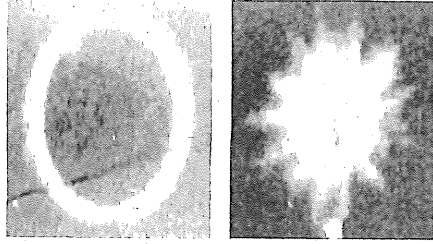


細胞形成「セプチン」関与

名大助教ら解明 疾病治療 手がかりに
 キン
 パー
 ソン 病など

生物の細胞質分裂や精子の形成などにかかわるときに、様々な細胞の形を制御する機能があることを、名古屋大学の滝口金吾助教らのグループが世界で初めて突き止め、米科学誌「カレント・バイオロジー」電子版に発表した。



㊦通常のリボソーム㊧セプチンの作用で突起が伸びたリボソーム（ともに滝口金吾助教提供）

セプチンは脳や精巣などに幅広く存在し、パーキンソン病や男性不妊症などは、セプチンの異常が関係していることがわかってきた。滝口助教らが、リン脂質でできたリボソームという人工の生体膜にセプチンを加えたところ、リボソームから多数の突起が伸び、さらにセプチンが突起部分の周囲を巻くようにして糸状の線維を形成した。こうした形状は動物の神経細胞などに見られることから、セプチンの機能が判明した。滝口助教は「セプチンが細胞の形成にどうかかわっているのかを判明したことで、セプチンの異常による疾患の発症原因や治療方法の究明につながる」と話している。